

目標は初の道内3冠

登別市の三愛病院野球部（上田政樹監督）の今季の活動がスタートした。活動の柱は「全国でも勝てるチームづくり」。目標は初の道内3冠だ。（高橋昭博）

全国で勝てるチーム掲げ

登別・三愛病院野球部が始動



新人を迎えて今季の活動をスタートさせた三愛病院野球部

昨年は国体、天皇賜杯、知事杯の道内3タイトルのうち、天皇賜杯と知事杯の2冠を達成した。しかし、天皇賜杯全国大会は初戦で6-0と完敗しており、今年には道内王者とともに、全国での1勝、2勝もクロウズアップされている。

今季入部した新人は、柿崎孝輔（18）＝捕手、村山貴紀（23）＝内野手＝の2人。戦力をみると、ポイントになる4人の投手陣はマックス146ポのストリートが武器の平田晃基、安定感のある市川雄策が軸になりそう。総体として投手力の底上げが課題になっている。また、チームはベテラン頼みの傾向があり、若手の躍進に大きな期待が掛かっている。

上田監督は「昨年は道内2タイトルを取っていいシーズンになったが、全国大会ではいずれも初戦敗退。もう少し戦える手応えがあったので悔しさもある。目

標は国体、知事杯、天皇賜杯の3冠。特に天皇賜杯全国大会は北海道の地元開催なので、3連覇して上位を目指す」と力が入る。

山田大樹主将は「昨年の全国大会では力の差を感じ

たが、うちも大学や全国大会を経験しているメンバーがいるし、対応できる力はある。全国でどこまで戦えるか」とチームのレベルアップを誓った。